

# 2023年3月期 第2四半期決算説明会

2022年11月25日

物流事業堅調、上期期初計画、通期予想を上方修正  
コア事業深耕化とDXにより収益力向上を目指す

## I. 2023年3月期 第2四半期 実績

P.3

## II. 2023年3月期 通期計画

P.12

## III. 第7次中期経営計画について

P.18

## IV. DXの推進について

P.24

---

# I .2023年3月期 第2四半期実績

---

# 2023年3月期 第2四半期 実績

物流事業が想定以上の好調により、期初計画を大きく上回る

\* 2022年10月31日発表

(単位：百万円)

	22/3期2Q 実績 (a)	23/3期2Q			期初計画比		前年同期比	
		期初 計画 (b)	修正 計画*	実績 (c)	増減額 (c-b)	率 (c÷b)	増減額 (c-a)	率 (c÷a)
売上高	85,931	95,000	108,000	107,557	12,557	113.2%	21,626	125.2%
営業利益	3,603	4,300	7,600	7,675	3,375	178.5%	4,071	213.0%
経常利益	4,344	4,600	8,300	8,277	3,677	179.9%	3,933	190.5%
四半期 純利益	2,364	3,200	5,800	5,852	2,652	182.9%	3,488	247.6%
想定為替 レート	-	1ドル = 122円	1ドル = 144円	-	-	-	-	-

# 2023年3月期 第2四半期セグメント別実績

多様な輸送手段の提供や旅行事業の改善により大幅増益

(単位：百万円)

事業		22/3期2Q 実績	23/3期2Q 実績	前年同期比		
				増減額	率	
売上高	物流事業	日本	53,981	61,210	7,229	113.4%
		海外	30,085	43,236	13,151	143.7%
	旅行事業	1,153	2,500	1,347	216.8%	
	不動産事業	710	609	△100	85.8%	
	合計	85,931	107,557	21,626	125.2%	
営業利益	物流事業	日本	1,803	3,086	1,282	171.2%
		海外	2,045	4,249	2,203	207.7%
	旅行事業	△647	△66	581	—	
	不動産事業	392	398	5	101.3%	
	その他	9	8	△0	89.3%	
	合計	3,603	7,675	4,071	213.0%	

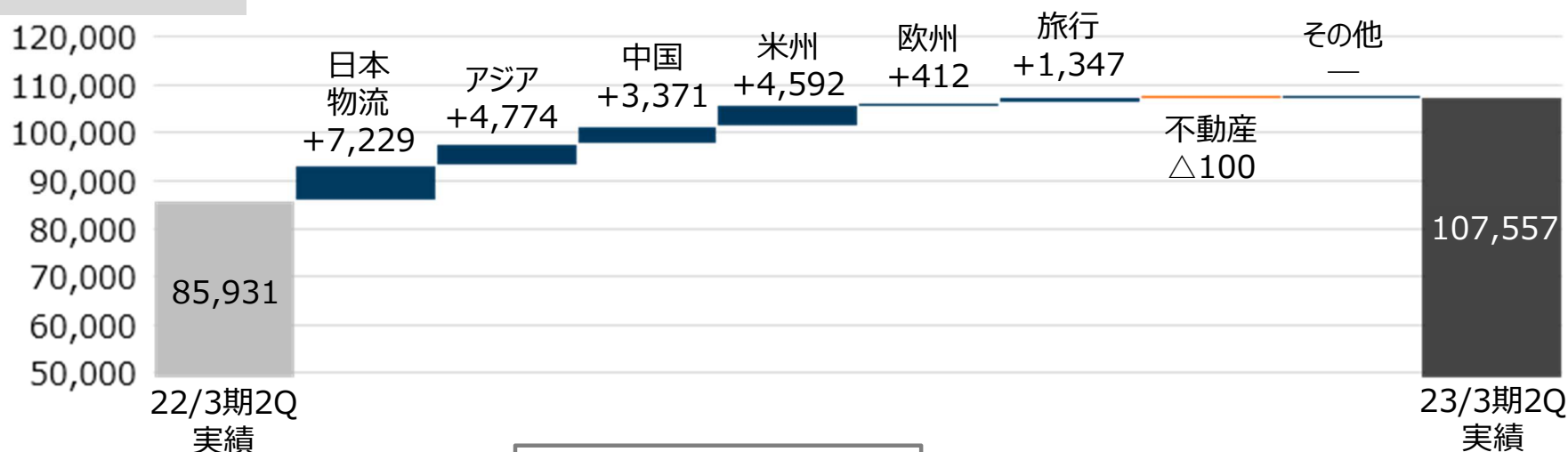
※数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

# 2023年3月期 第2四半期 セグメント別増減比較

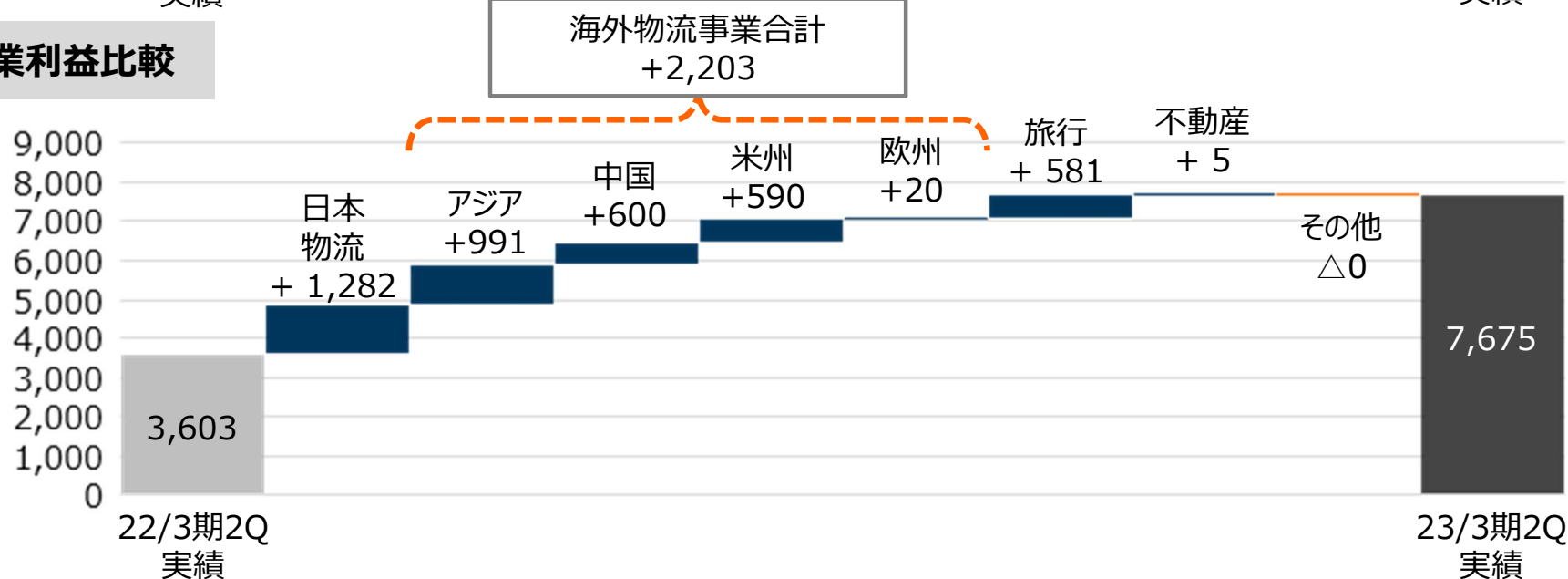
## 物流事業は海外を中心に順調に推移

### 売上高比較

(単位：百万円)



### 営業利益比較



# 第2四半期実績 営業利益増減要因

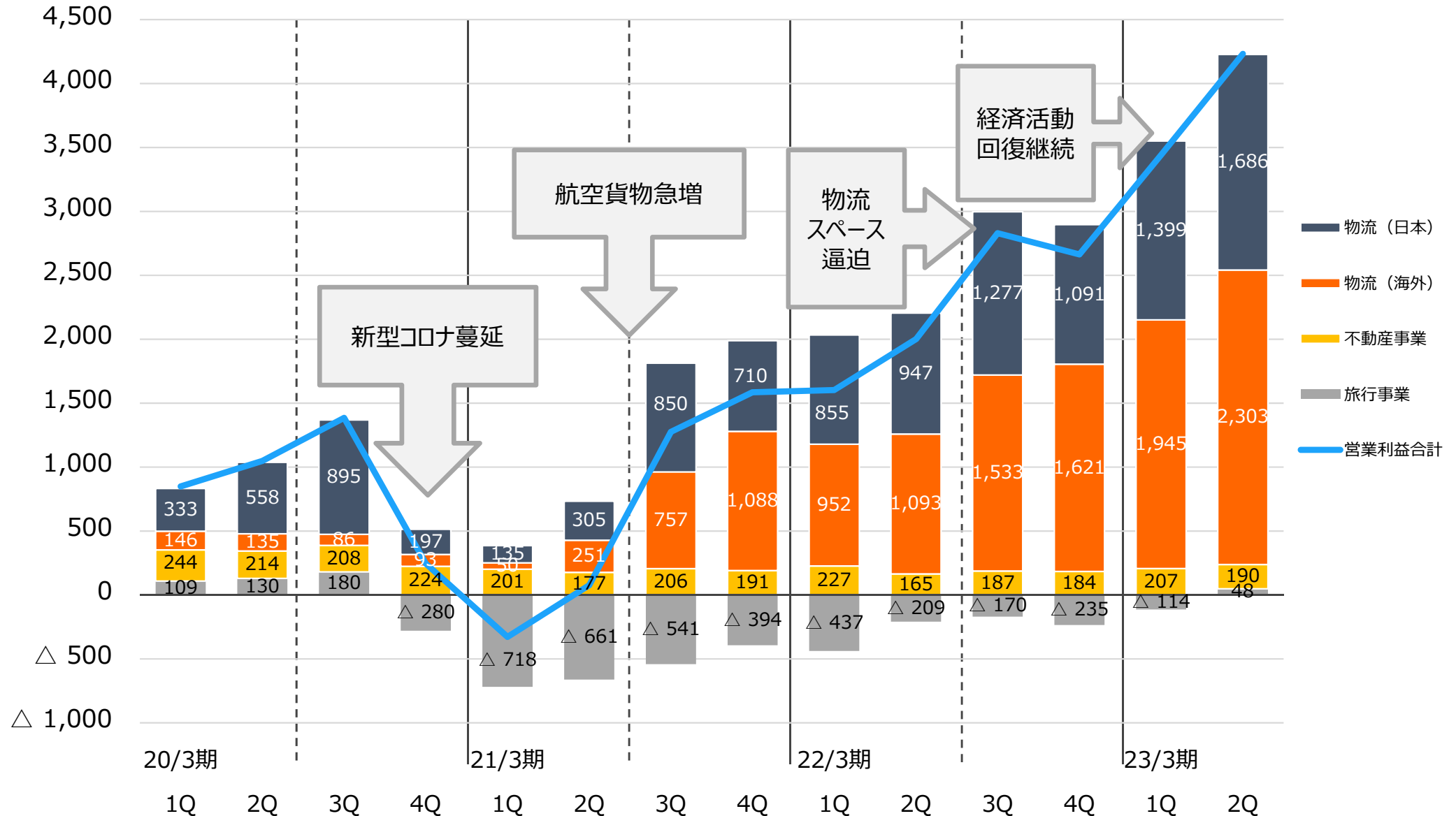
各地域、自動車関連貨物を中心に好調な取り扱い継続

事業地域	概況
物 日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・航空輸出は機械等の取り扱いが好調、航空輸入は自動車関連貨物の取り扱いが収益に貢献</li> <li>・海上輸出は機械設備や化学品、海上輸入は食品や雑貨等の取り扱いが増加</li> </ul>
流 アジア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイでは自動車関連貨物の取り扱いが、海上・航空ともに好調に推移</li> <li>・インドでは二輪車の国内輸送が順調に推移、自動車関連貨物の航空輸出取り扱い増加</li> <li>・ベトナムでは電子部品等の航空輸出、日本向け雑貨等の海上輸出取り扱い増加</li> </ul>
事 中国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香港では自動車関連貨物の航空輸出が好調、家電製品の海上輸出も好調に推移</li> <li>・上海では家電製品や雑貨の倉庫保管業務が堅調に推移</li> <li>・常熟では欧州向け家電製品の鉄道輸送が収益に貢献</li> </ul>
業 米州	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米国では自動車関連貨物や家電製品の倉庫保管業務が堅調な取り扱い</li> <li>・食品関連の海上輸出は好調な取り扱い</li> <li>・カナダ、米国間の自動車関連貨物のクロスボーダー輸送が収益に寄与</li> </ul>
業 欧州	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツでは家電製品の取り扱いが堅調に推移</li> <li>・ポーランドでは消費財の倉庫業務の取り扱いが増加</li> <li>・フランスでは自動車関連貨物の海上輸入の取り扱いが好調に推移</li> </ul>
旅行事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務渡航の取り扱いが回復基調で推移、四半期ベースで黒字化</li> </ul>
不動産事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光バスの利用増加が収益に寄与</li> </ul>

# 四半期営業利益（セグメント別）推移グラフ

今期に入っても経済活動回復継続により、営業利益がさらに伸長

(単位：百万円)

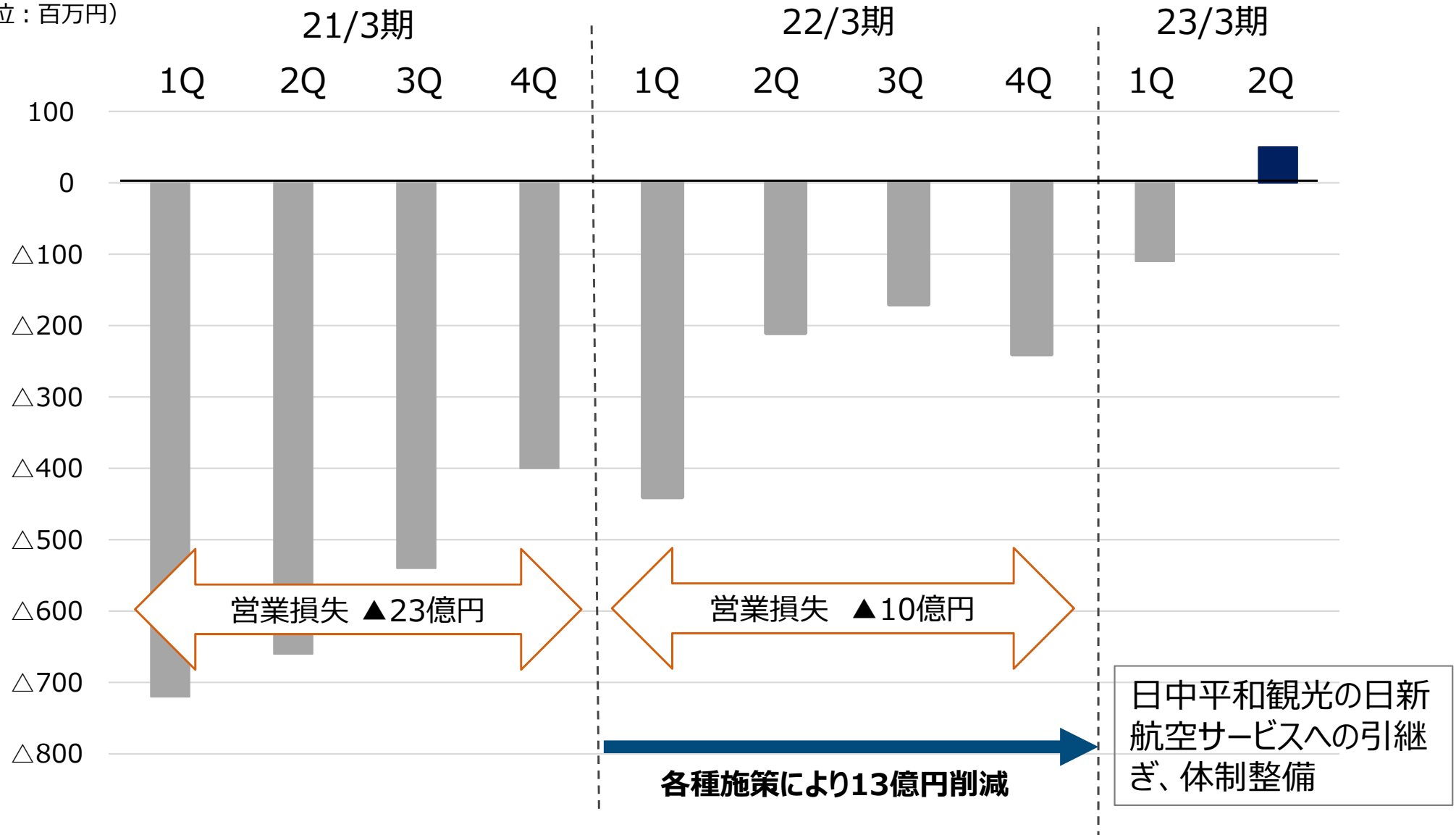




# 旅行事業の動向

国内営業展開と海外業務渡航の伸長により、23/3期2Qは黒字化を達成

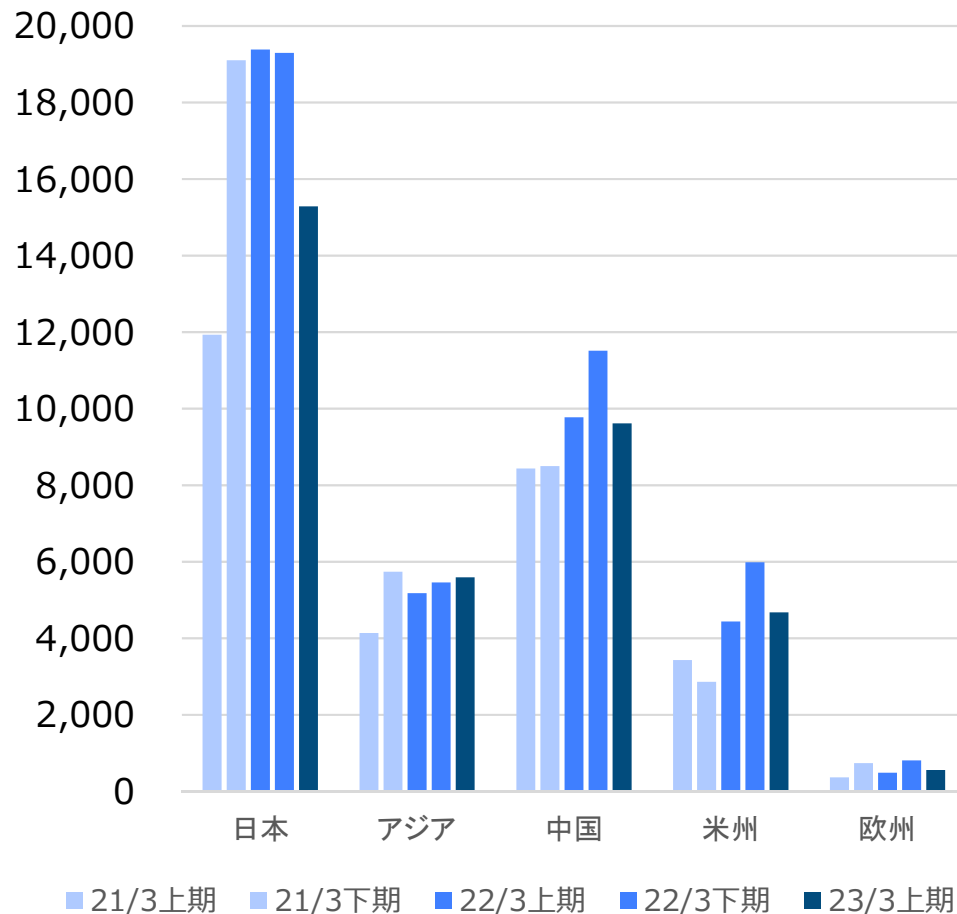
(単位：百万円)



航空貨物は輸出入とも海上回帰が進む

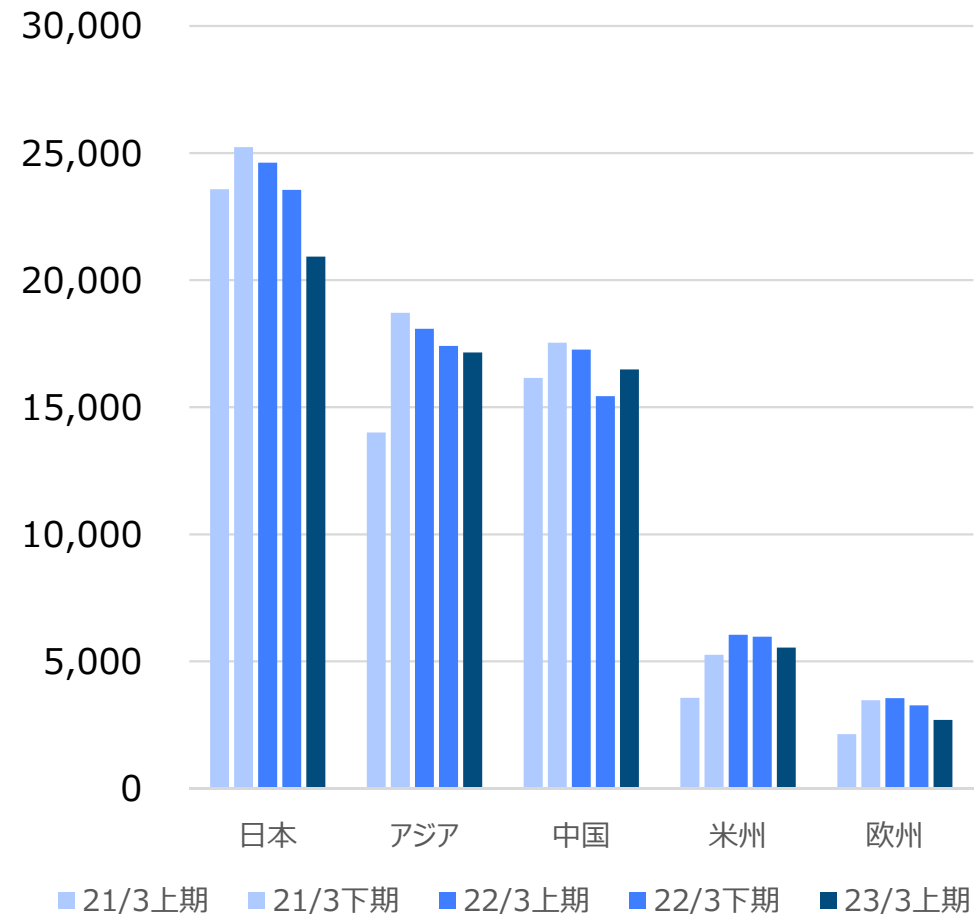
航空 輸出

(単位：トン)



航空 輸入

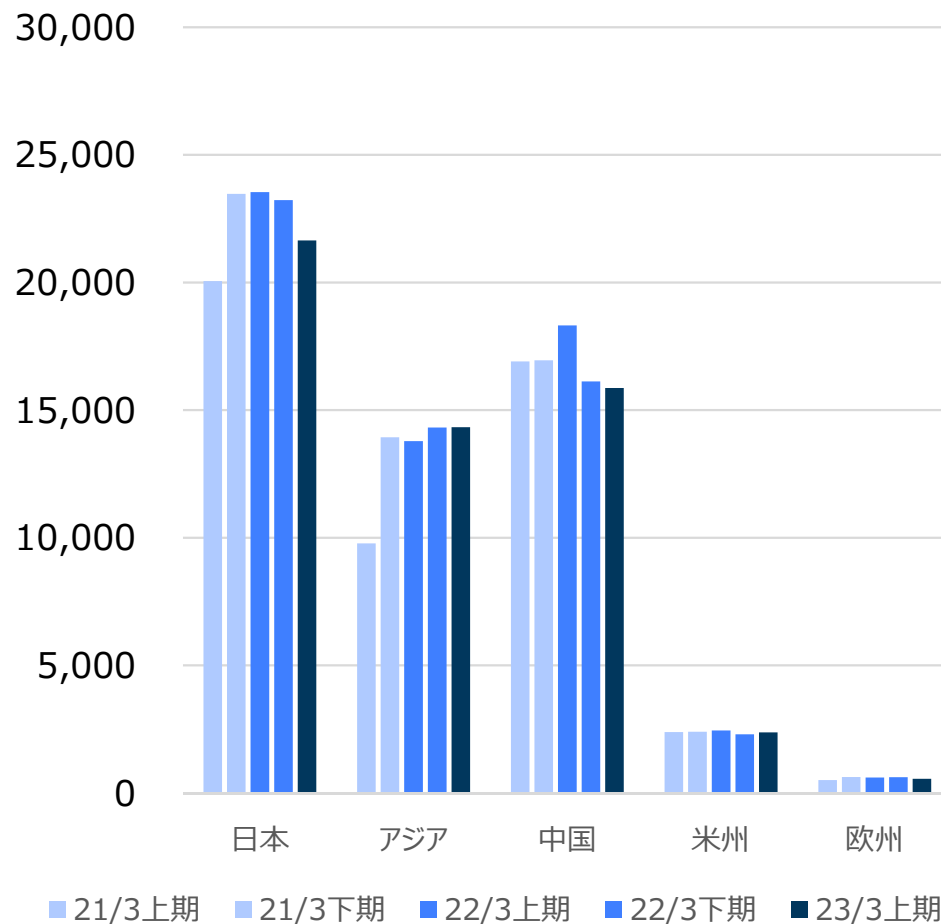
(単位：件)



## 海上貨物は輸出入とも高水準

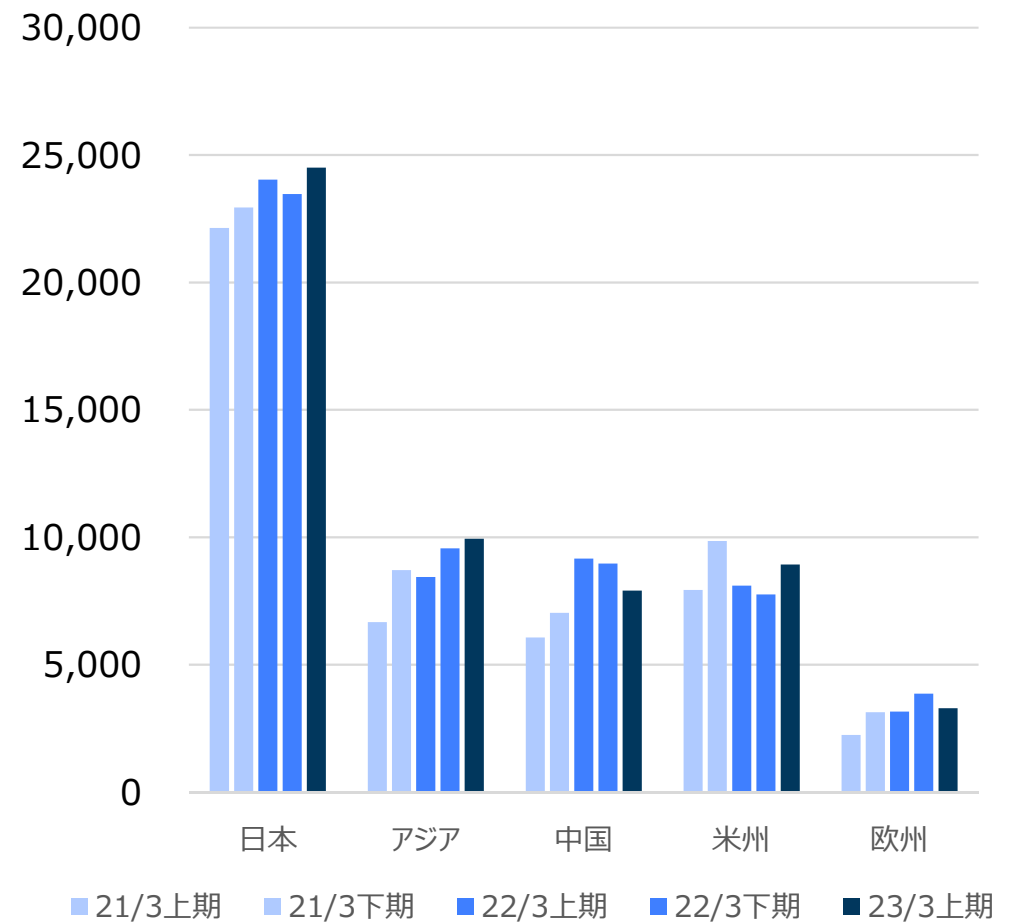
海上 輸出

(単位：TEU)



海上 輸入

(単位：TEU)



---

## Ⅱ.2023年3月期 通期計画

---

上期実績は期初計画を上回り、通期予想も上方修正

\* 2022年10月31日発表

(単位：百万円)

	22/3期	23/3期						前期比	
		上期実績	下期計画	期初計画 (b)	修正計画* (c)	期初計画比			
	通期実績 (a)					増減額 (c-b)	率 (c÷b)	増減額 (c-a)	率 (c÷a)
売上高	192,699	107,557	102,442	190,000	210,000	20,000	110.5%	17,300	109.0%
営業利益	9,098	7,675	5,324	8,500	13,000	4,500	152.9%	3,901	142.9%
経常利益	9,859	8,277	5,722	9,000	14,000	5,000	155.6%	4,140	142.0%
当期純利益	6,365	5,852	3,947	6,500	9,800	3,300	150.8%	3,434	153.9%
想定為替レート	-	-	-	1ドル = 122円	1ドル = 144円	-	-	-	-

# 2023年3月期 セグメント別計画

下期は物流混乱が収束、スポット貨物の減少を見込む

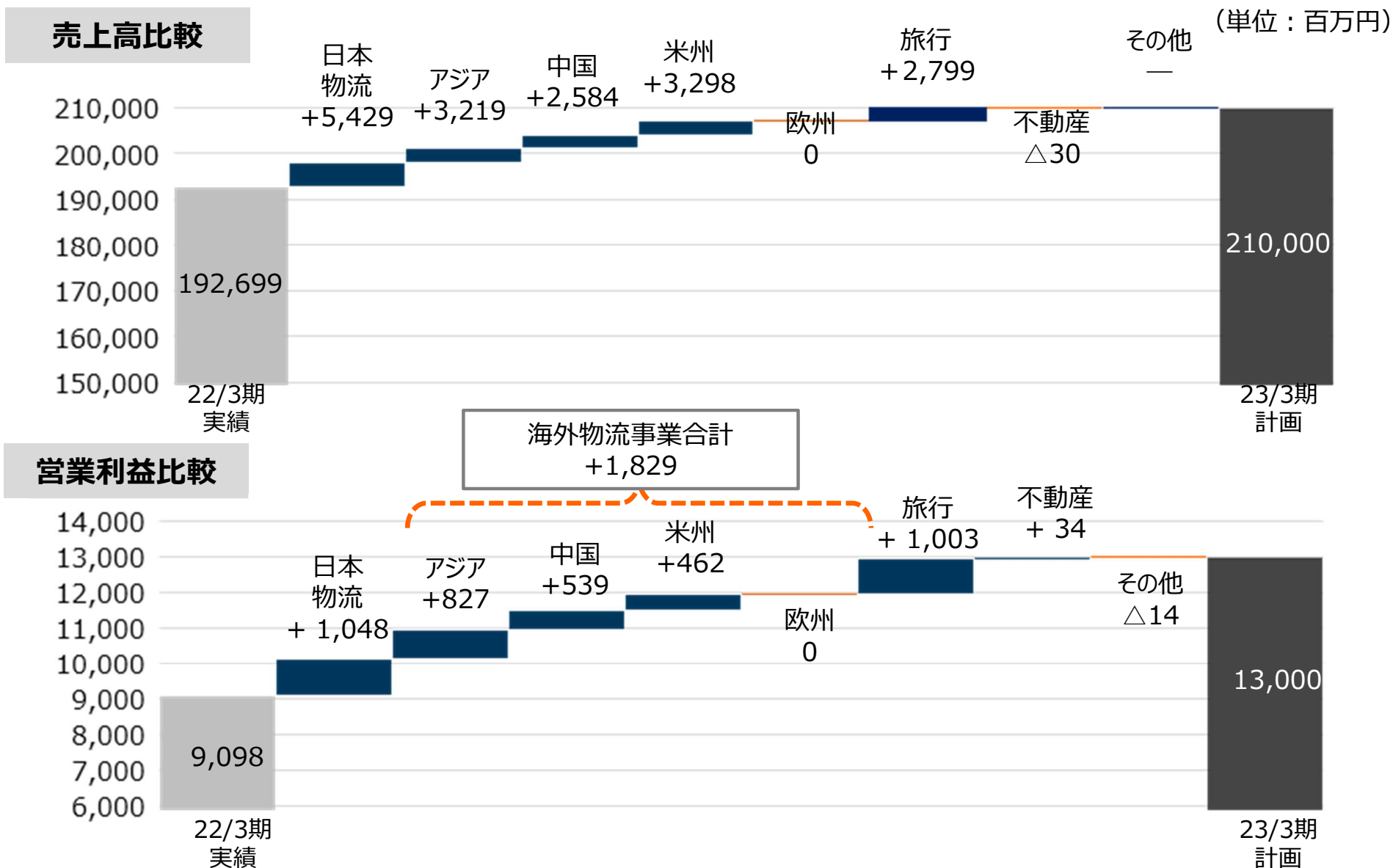
(単位：百万円)

事業	22/3期	23/3期						前期比			
		通期実績 (a)	上期実績	下期計画	期初計画 (b)	修正計画 (c)	期初計画比		増減額 (c-a)	率 (c÷a)	
							増減額 (c-b)	率 (c÷b)			
売上高	物流事業	日本	114,170	61,210	58,411	109,800	119,600	9,800	108.9%	5,429	104.8%
		海外	74,698	43,236	40,541	74,000	83,800	9,800	113.2%	9,101	112.2%
	旅行事業	2,500	2,500	2,799	4,600	5,300	700	115.2%	2,799	212.0%	
	不動産事業	1,330	609	690	1,600	1,300	△300	81.3%	△30	97.7%	
	合計	192,699	107,557	102,442	190,000	210,000	20,000	110.5%	17,300	109.0%	
営業利益	物流事業	日本	4,171	3,086	2,136	3,600	5,220	1,620	145.0%	1,048	125.1%
		海外	5,200	4,249	2,777	4,600	7,030	2,430	152.8%	1,829	135.2%
	旅行事業	△1,053	△66	16	△450	△50	400	-	1,003	-	
	不動産事業	765	398	401	765	800	35	104.6%	34	104.5%	
	その他	14	8	△8	△15	-	15	-	△14	-	
	合計	9,098	7,675	5,324	8,500	13,000	4,500	152.9%	3,901	142.9%	

※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

# 2023年3月期通期 売上高・営業利益増減比較

物流事業は海外を中心に順調に推移、旅行事業も収益改善

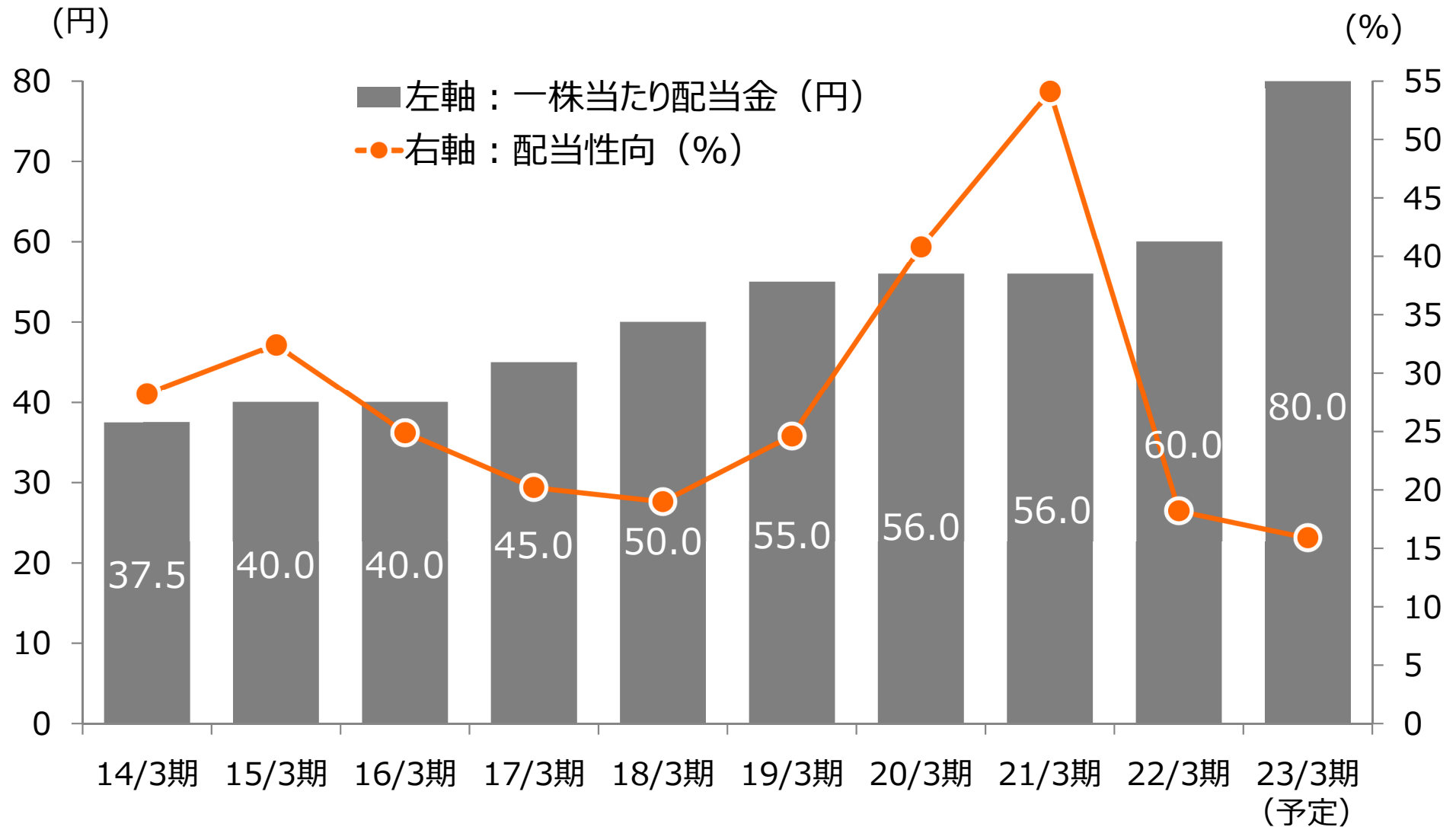


## 物流事業はスポット案件等の取り扱い減少を見込む(上期比較)

事業	地域	下期見通し
物流事業	日本	・スポット貨物の減少、春節の影響で取り扱い減少
	アジア	・自動車関連のスポット貨物減少 (タイ・インド)
	中国	・春節の影響で取り扱い減少
	米州	・西岸の滞船解消も鉄道ターミナルの混乱継続 ・自動車関連のスポット貨物減少
	欧州	・英国・ベルギーで自動車関連貨物の取り扱い減少
旅行事業		・業務渡航取り扱い増加も国内団体取扱いは減少を見込む
不動産事業		・駐車場収入堅調



## 2期連続の増配を予定、安定配当を継続



※ 2017年10月1日を効力発生日として普通株式5株につき1株の割合をもって株式併合を実施し、株式併合を考慮した金額を記載

---

## Ⅲ.第7次中期経営計画について

---

## 基本方針

「グローバル・ロジスティクス・プロバイダーとして、  
新領域事業への挑戦とコア事業の深耕化を図るとともに、ESG経営に取り組む」

【コア事業の深耕化】  
(=事業ポートフォリオの見直し)

営業体制を産業別の体制へ変更、3次元(事業別、産業別、地域別)での事業管理体制を整え、事業拡大を目指す

【ESG経営】

持続可能な社会の実現に向け、責任ある企業活動を推進

【新領域事業】

従来とは異なる発想により新たな物流関連事業を創出(DX化等)

## 期間

2022年4月～2027年3月(5年間)

5年間を下記の2つの期間に分け、目標達成と高い企業価値の創造を目指す

フェーズ1(22年4月～24年3月)  
次世代(Society5.0)に適応する事業基盤・経営基盤の構築

フェーズ2(24年4月～27年3月)  
施策の確実な実行と更なる成長の実現

## 数値目標

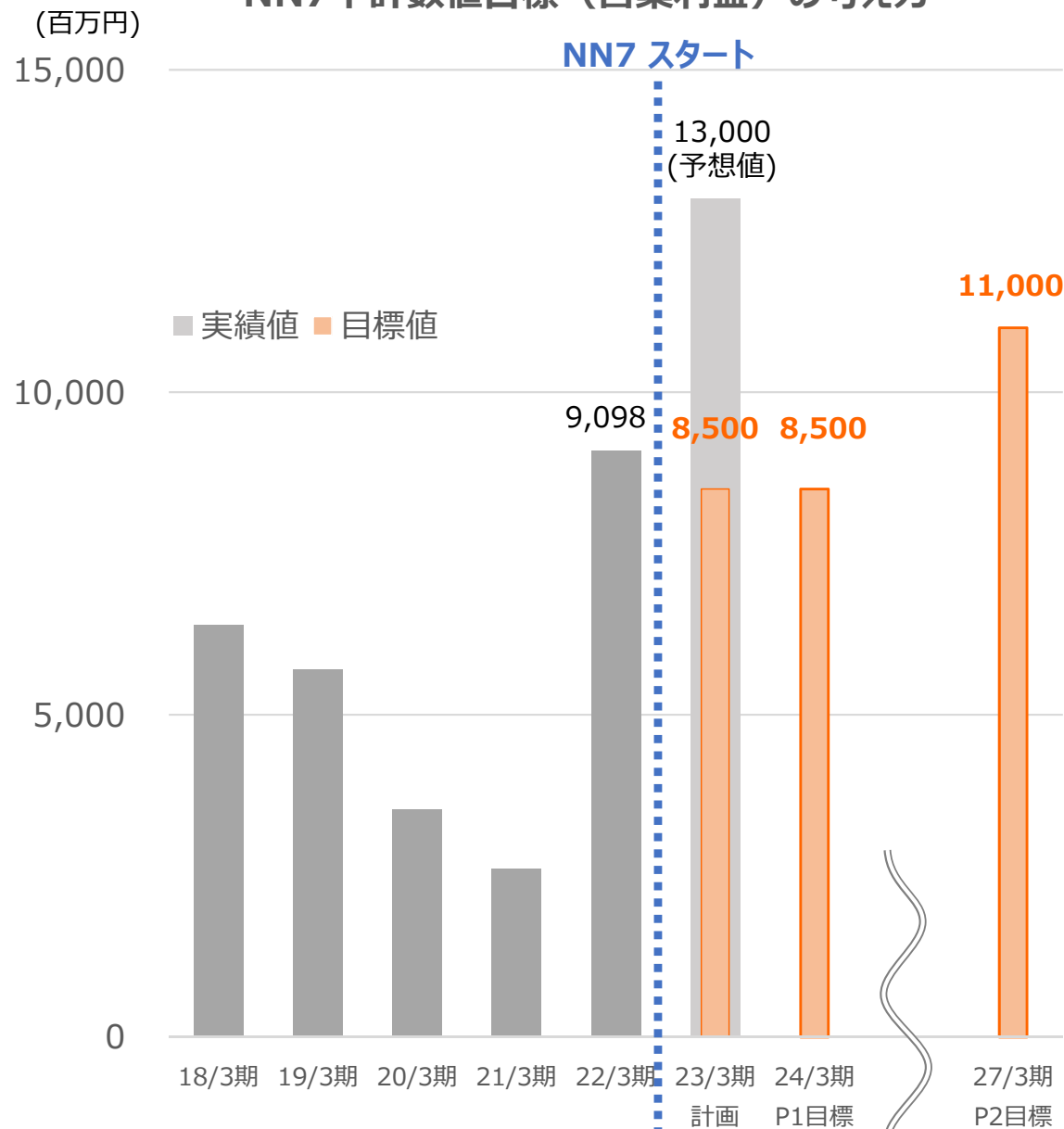
### <フェーズ1> 2022年度～2023年度 (2024年3月期 目標)

売上高： **1,900億円**  
 営業利益： **85億円**  
 経常利益： **90億円**  
 当期純利益： **65億円**  
 ROE： **8.0%程度**

### <フェーズ2> 2024年度～2026年度 (2027年3月期 目標)

売上高： **2,750億円**  
 営業利益： **110億円**  
 経常利益： **115億円**  
 当期純利益： **86億円**  
 ROE： **9.0%程度**

## NN7中計数値目標（営業利益）の考え方



営業キャッシュ・フロー(500~600億円)を創出し成長投資と株主還元を実施

キャッシュイン

キャッシュアウト

営業キャッシュ・ フローの創出  500~ 600億円	<b>投資</b>	<b>(確定)</b> 設備投資	神奈川埠頭危険物倉庫 50億円 栃木芳賀倉庫 50億円
		<b>(予定、 計画値)</b> 設備関連 その他	国内、海外施設関連への投資 150億円 IT・DX推進、M&A、ESG、人材 等 50億円
		<b>財務体質 強化</b>	有利子負債の返済
		<b>株主還元</b>	配当・自己株式取得

# NN7 コア事業深耕化 (23/3期上期取り組み)

## 自動車関連物流

- 【日本】
  - ・栃木芳賀倉庫(24年11月竣工予定)
- 【アジア】
  - ・マレーシア 部品保管案件受注継続
- 【米州】
  - ・コロバス倉庫拡張
  - ・ダラス事務所営業開始
- 【欧州】
  - ・オーストリア発米国向けEV部品の航空輸出案件受注

## 化学品・危険品物流

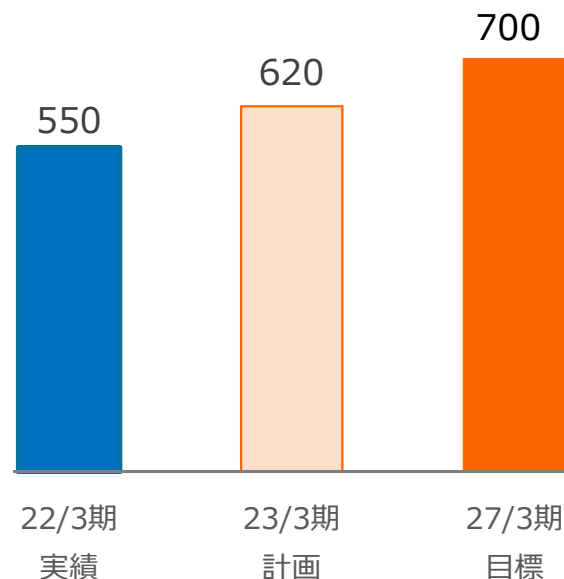
- 【日本】
  - ・神奈川埠頭危険物倉庫(23年8月竣工予定)
- 【アジア】
  - ・シンガポール 化学品倉庫拡充
- 【中国】
  - ・常熟 タンクコンテナによる取り扱い開始

## 食品物流

- 【日本】
  - ・平和島冷蔵物流センター物量増加により軌道化
- 【アジア】
  - ・インドネシア ハラール取得により、業務拡大
- 【米州】
  - ・米国 冷凍冷蔵貨物輸入取り扱い開始

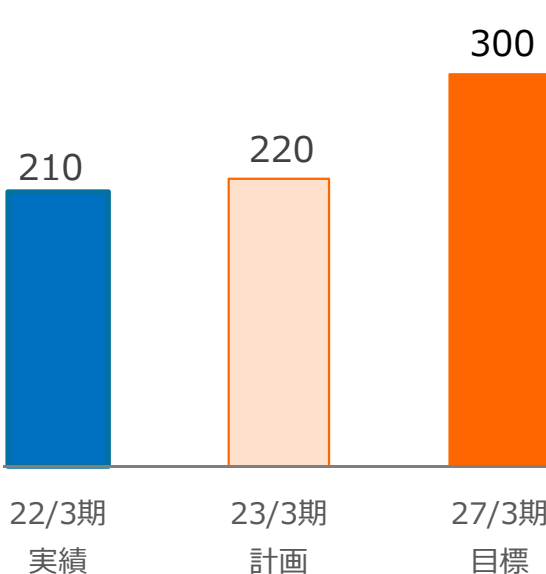
### 売上高推移

(単位：億円)



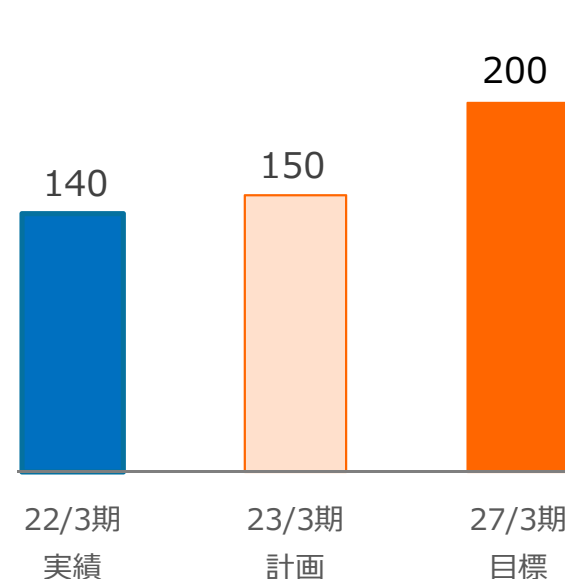
### 売上高推移

(単位：億円)







### 売上高推移

(単位：億円)



※ グラフは社内集計値により作成

## テーマ毎にマテリアリティを設定

テーマ	マテリアリティ	主要な取り組み
 <p>自然資本 <b>地球</b></p>	<p>脱炭素社会の実現と 環境に配慮した循環型社会への 貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再生可能エネルギーへの転換</li> <li>・新規施設の環境対応化</li> <li>・車両の環境対応車への転換</li> <li>・森林再生事業、風力発電事業への協賛継続</li> </ul>
 <p>製造・知的資本 <b>品質</b></p>	<p>最先端技術の導入と 高品質サービスの提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物流イノベーション、DXを活用した高品質物流商品の開発</li> <li>・ステークホルダーへの気配りのあるサービスの提供と対応</li> <li>・GDP（医薬品物流に関する品質基準）の取得の拡大</li> </ul>
 <p>人的・知的資本 <b>人</b></p>	<p>一人ひとりの尊重と 個の能力を最大限に 発揮できる環境の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・えるぼし三ツ星取得、くるみん認定を活かした女性が活躍できる職場作り</li> <li>・安全、快適な職場作りへの継続的努力</li> <li>・社員の専門スキル習得による能力開発</li> </ul>
 <p>社会関係資本 <b>信頼</b></p>	<p>すべてのステークホルダーに 公正で価値と希望の持てる 企業づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーポレートガバナンスとリスクマネジメントの強化</li> <li>・コンプライアンスの徹底</li> <li>・BCPによる災害への迅速な対応</li> <li>・非財務情報開示の拡充</li> </ul>

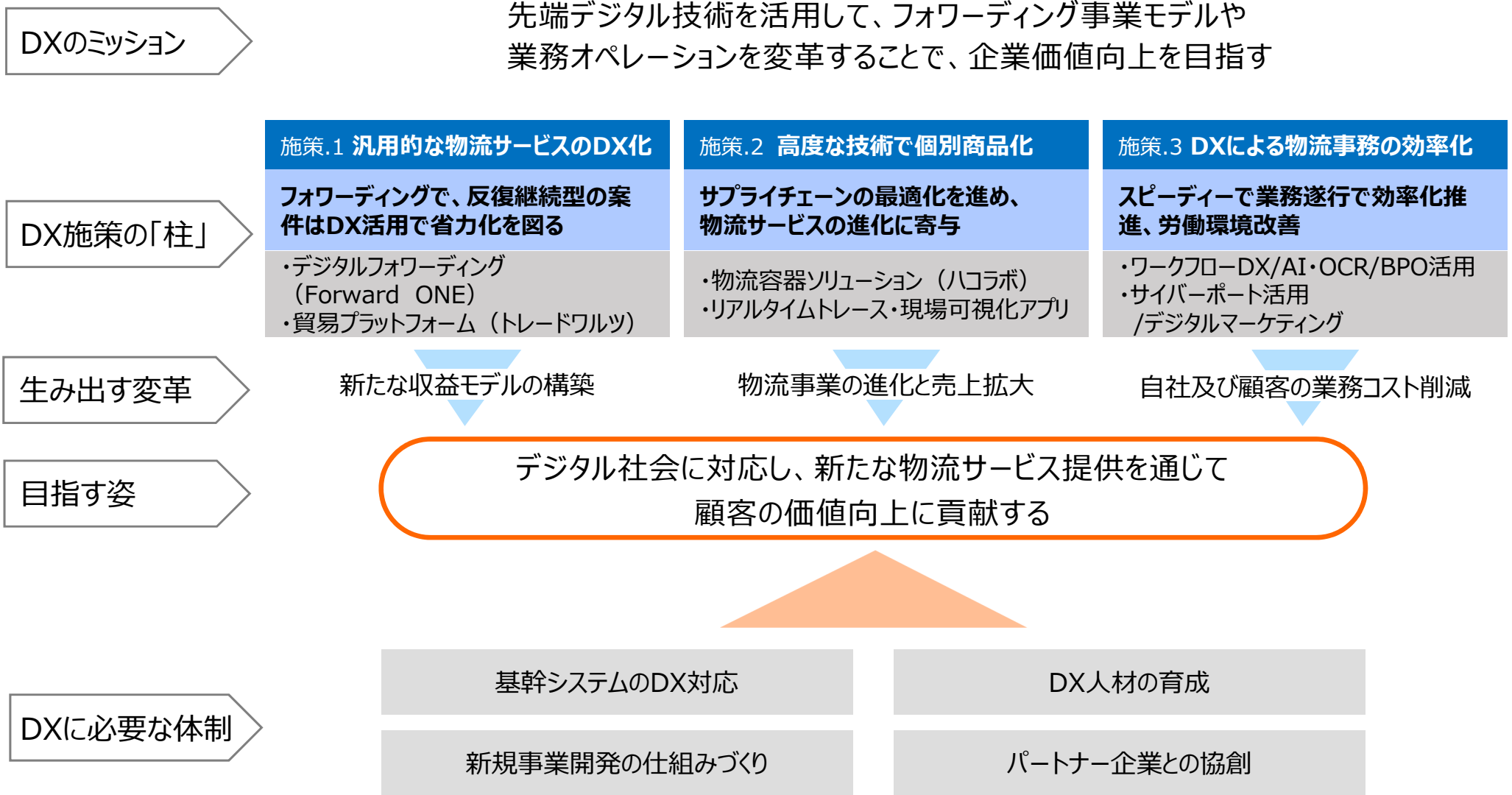
---

## IV.DXの推進について

---



**動画をご覧ください（1分24秒）**



## Forward ONE

概要：「見積もり」「発注」「作業進捗」を一元管理できるデジタル・フォワーディングサービスを提供

目的： 1) デジタルチャネルからの新規顧客の獲得、2) 既存顧客の深耕化 3) 物流手配業務の効率化

目標： 2027年度に売上高70億円、営業利益10億円を目指す



## 2023年3月期 第2四半期 実績

物流事業好調、旅行事業も収益改善で、期初計画を大きく上回る

## 2023年3月期 通期計画

上期実績の好調で、通期予想も上方修正

## 第7次中期経営計画について

コア事業深耕化とDXにより収益力向上を目指す

## DXの推進について

先端デジタル技術を活用して、企業価値向上を目指す

資料ならびにIRに関するお問い合わせは下記までお願い致します。

株式会社 日新  
経営企画部 広報・IR課  
TEL : 03-3238-6555  
<https://www.nissin-tw.com>

※本資料は投資勧誘の目的のための資料ではございません。  
また、将来に亘る部分につきましては予想に基づくものであり、  
確約や保証を与えるものではありません。